

原発の運転延長反対

越前市議会 意見書を採択

越前市議会は二日に開いた本会議で、「運転開始から四十年を超えた原発の運転期間延長をしないよう求める」意見書を採択した。

意見書案は会派「未来」の安立里美、城戸茂夫、川崎悟司の三氏が提出した。「福島原発事故は四年たった現在も原因が究明されず、汚染水が垂れ流され続けていく」と指摘。国の原子力規制委員会も原発の再稼働に対する判断を避ける状況なのに政府は、四十年

を超える原発のほとんどを動かすことを前提に将来の電源構成を決めていると批判した。

安全な未来を次世代に引き継ぐため①運転開始から四十年を超えた原発の運転期間を延長しない②原発の廃止による雇用や地域経済への支援策を国が責任を持つて行うの二項目を強く要望する、としている。本会議では起立採決の結果、議長を除く議員二十一人のうち十四人が賛成した。

県内の原発では高浜1号機が運転開始から四十年、同2号機は三十九年、美浜原発3号機が三十八年たっている。福島第一原発事故を受けた法改正で原発の運転期間を原則四十年としたが一回に限り最長二十年延長できる。(飯田安彦)